

世界のいろいろな塩①

日本人にとって一番身近な塩の原料は海水ですが、塩は、海以外からもとれます。地下からとれる岩塩や、塩水の湖・塩湖です。世界では、地形や気象条件に合った方法で、さまざまな塩がつけられているのです。



煮つめ塩 (せんごう塩)

塩水を煮つめて水分を蒸発させる方法を「煮つめ(せんごう)」、この方法でつくられる塩を、煮つめ塩(せんごう塩)といいます。

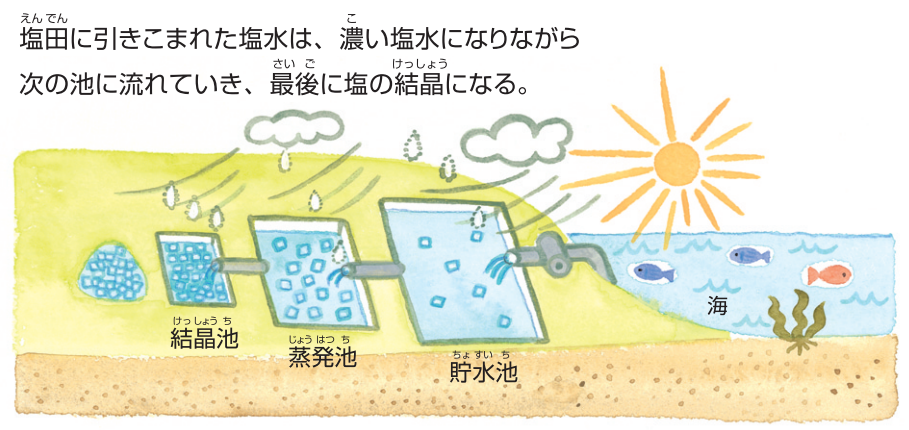
日本には、岩塩や塩湖(15・16ページ)といった塩の資源がないうえ、雨が多いので天日製塩にも適しません。そのため古くから、海水を煮つめて塩がつけられてきました。

天日塩

海や塩湖から塩水を塩田に引きこみ、太陽や風など自然の力だけで水分を蒸発させて塩をつくる方法を、天日製塩といいます。この方法でできる天日塩の結晶は、半年～2年もの時間をかけてじっくりと結晶化するので、とても大きなかたまりになります。

天日製塩は燃料がいらないので、世界的には、広く行われている方法です。

天日製塩のしくみ



●ゲレロネグロ (メキシコ)

東京都23区とほぼ同じ広さをもつ、世界最大の天日塩田。広大な塩田でできた塩は、ブルドーザーなどで運ばれる。日本が輸入する塩の約4割がこの塩。

●ウユニ湖 (ボリビア)

アンデス高地にある塩湖。四国の半分くらいの広さがあり、乾季には真っ白な塩の結晶におおわれる。切り出した塩は、おもに家畜用に売られる。



ウユニ湖から切り出された塩のかたまり



ウユニ湖(撮影:片平 孝)

湖塩

大むかしの地殻変動などによって閉じこめられた海の一部は、濃い塩水の湖「塩湖」になります。塩湖からつくられる塩を、湖塩といいます。塩湖は乾燥した地域に多く見られるため、太陽などの力で水分を蒸発させる天日製塩で塩をつくることが多いのですが、中には、自然に結晶する塩湖もあります。

●湖塩の結晶

イスラエルにある塩湖「死海」の塩の結晶。死海の塩の濃さは、20～30%。あまりの塩分の多さに生きものは生きられない。つくられる塩は、ほとんどが工業用として使われる。



世界のいろいろな塩②

岩塩や塩湖は、海から遠くはなれた場所にあることも少なくありません。しかしこれらも、元をたどれば、海の一部が陸に閉じこめられ、長い年月をかけてできたもの。すべての塩は、海水からできているのです。



岩塩のかたまり
混ざっている鉱物によって、
さまざまな色をしている



●岩塩の鉱山内部

(イギリス、チェシャー地方)

18～19世紀にかけて、イギリスは世界一の塩の生産国だった。当時の中心地が北西部のチェシャー地方。岩塩はともかたいので、ダイナマイトなどでこまかく砕いてから、ほり出す。

岩塩

濃い塩の湖である「塩湖」は、2～3億年をかけて干上がると、塩が結晶になり、その上に土や砂が積もって岩塩ができます。世界の塩のおよそ3分の2が岩塩からつくられますが、日本にはありません。

むかしはそのままほり出していましたが、今は、とかした岩塩をポンプでくみ上げ、煮つめて塩をつくっているところがほとんどです。



ウェリチカ鉱山
「塩の宮殿」



ポーランド岩塩

●ウェリチカ鉱山「塩の宮殿」

(ポーランド)

岩塩をほり出した後の使われなくなった地下の空洞に「塩の宮殿」がつけられ、世界遺産にも指定されている。壁や床、シャンデリアなども、すべて岩塩できている。(撮影:片平 孝)

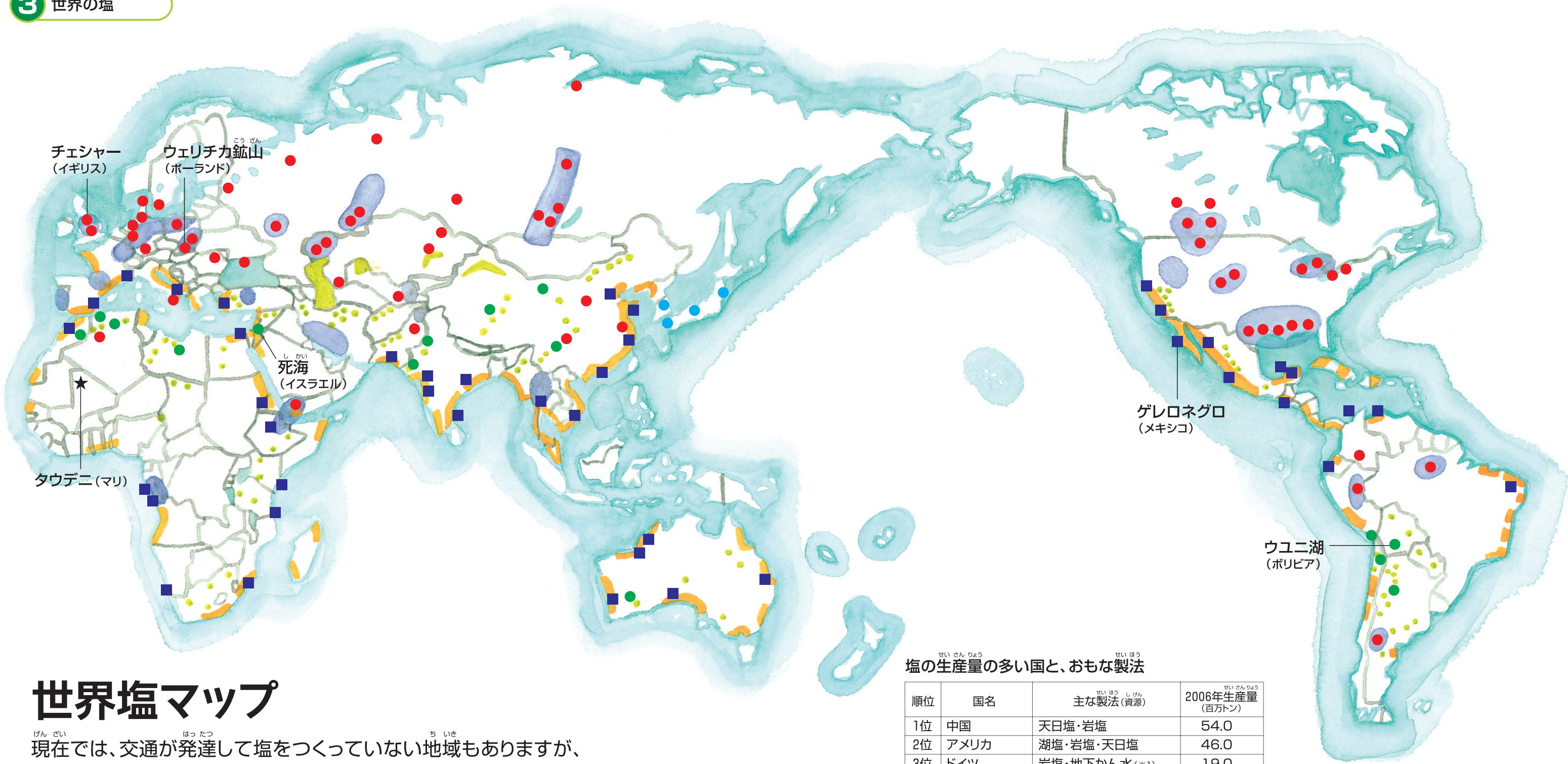


岩塩をほり出しているようす



●岩塩を運ぶ遊牧民 (マリ)

マリのタウデニでとれる岩塩を板状に切り出し、ラクダで町まで運ぶ。昼と夜の気温差が激しい砂漠を進む往復40日の旅は、命がけ。(撮影:片平 孝)



世界塩マップ

現在では、交通が発達して塩をつくっていない地域もありますが、塩はむかしから、世界中でつくられてきました。ここでは、製塩地として代表的なところ、特徴のあるところを紹介します。どんなところでどんな塩がつくられているか、見てみましょう！

塩の生産量の多い国と、おもな製法

順位	国名	主な製法(資源)	2006年生産量(百万トン)
1位	中国	天日塩・岩塩	54.0
2位	アメリカ	湖塩・岩塩・天日塩	46.0
3位	ドイツ	岩塩・地下かん水(※1)	19.0
4位	インド	天日塩	15.5
5位	カナダ	岩塩	13.3
6位	オーストラリア	天日塩	12.4
7位	メキシコ	天日塩	9.5
8位	フランス	地下かん水・天日塩・岩塩	7.8
...			
28位	日本	煮つめ塩(イオン膜法※2)	1.2

製塩地(塩資源別)

- 岩塩・地下かん水
- 天日製塩
- イオン膜法
- 塩湖・塩性湿地

塩資源の分布

- 地下岩塩層
- 塩湖・塩性湿地
- 天日製塩適地(海水)

※天日塩の多くは、海水を原料とする海塩。
 ※1 ほとんどの「地下かん水」は、地下水が地下にある岩塩をとかし、濃い塩水になったもの。岩塩と同じ地域に見られる。
 ※2 26ページ参照